

月寒の歩み ネットで共有

# 愛着つなぐ地域サイト

札女短大生 郷土史料をデジタル化



月寒地区の歩みを住民が共有できるサイトをつくる、札幌大学女子短大経営学科の学生と小山茂教授（後列左から2人目）

札幌市豊平区の札幌大学女子短大経営学科の学生たちが1月から、同区月寒地区の歩みを振り返るサイト「月寒Wiki(仮称)」の制作を始めた。住民がまとめた郷土史料や、町内会連合会の記念誌などをデジタルデ

ータにして、ネット上で住民に活用してもらおう。

小山茂教授が「何十年たっても地区住民が郷土史を学べるように」と発案。小山教授のゼミの1年生6人が

る郷土史料などをデジタル化することを、地区の個人や団体でつくる月寒まちづくり協議会に提案した。

「歴史の記録がなく」と力説する小山教授に、同協議会が賛同し、年間数十万円に上るサーバーの維持管理費を地元で負担することを決めた。

小山教授と学生は1月下旬から毎週1回集まり、現在は同協議会などが隔月で発行する「つきさつ新聞」のデジタル処理を進める。今後は地区の高齢者へのインタビューも始める予定で、山岸美咲さん(19)「北區」は「月寒のことはまったく知りませんが、埋もれた事実などを掘り起こせたらうれしい」と話す。サイトは完成まで1年近くかかる見通

した。

(粕谷武史)